

## 「万之瀬川河口干潟」保護への歩み

柳田一郎

〒 890-0034 鹿児島市田上 5-16-34 環境カウンセラー・鹿児島県職員

### ■ はじめに

平成 19 年 5 月 27 日、日本環境教育学会・鳥取大会において、万之瀬川河口の天然記念物指定の経過について発表しました。約 14 年にわたる経過は、各地で活動している人々の関心を集め、この 14 年を支えた力についての興味が高まりました。私は、なぜこのようなことができたのかという質問に、「焦らず、騒がず、みんなが真剣に力を合わせて、できることをしたから」と答えました。

水害防止のための河川改修ができなくなる、という誤解もあったとも聞きました。しかし、大被害を経験した土地に、防災工事は不可欠であると思いました。私は、かつて土木事務所に勤務し、日本の土木技術にできないことは無いと信じています。そして、現地には「親水」とは一味違う考え方で、人も生物も共に守る堤防ができました。今年にはいと、吹上浜県立自然公園の公園計画変更への動きも始まりました。これは、現地で暮らし、現地に関わる人々が、人間生活の保護と生物の保護を真剣に考え、柔軟な発想による懸命の工夫を行った官民協働の成果であると思います。

私は、近い将来、「限界集落」を克服するための地域間の生存競争（サバイバル）において、地域資源、中でも自然資源は、最後の切り札になると思っています。

### ■ 万之瀬川河口干潟の生態系

鹿児島県薩摩半島中部の南さつま市、東シナ

Yanagita, I. 2008. Recent advances in the conservation of the Manose River estuary, Kagoshima, Japan. *Nature of Kagoshima* 34: 21-23.

✉ 5-16-34 Tagami, Kagoshima 890-0034, Japan (e-mail: i-ecol@po2.synapse.ne.jp; tel: 099-258-2710). URL: <http://www5.synapse.ne.jp/ecoi/synapse-auto-page/>

海に注ぐ一級河川「万之瀬川（まのせがわ）」の河口（図 1）には、豊かな生物相をもつ広大な干潟があります。

- ① 1 千株を超える海浜植物「ハマボウ」の大群落。
- ② 国内最大の生息地とされる「ハクセンシオマネキ」（図 2）の群棲地。
- ③ 冬の貴重な渡り鳥「クロツラヘラサギ」を始め、カモ類など水鳥の越冬地。
- ④ 南限の二枚貝「ハマグリ」の自生地。
- ⑤ 「アカウミガメ」の産卵地。

### ■ 保護へのさきがけ

① 万之瀬川河口を取り囲む地域には、都市公園である「県立吹上浜海浜公園」と自然体験学習施設である「県立南薩少年自然の家」が立地。



図 1. 万之瀬川河口干潟の全景。



図 2. ハクセンシオマネキのオス（右）とメス（左）。  
写真提供：上野義光氏。



図3. ハクセンシオマネキ生息地人入り風景。

②平成5年、河口にある「中之島」に、県立吹上浜海浜公園のゴーカート場建設計画が浮上。クロツラヘラサギなどの貴重な渡り鳥や水鳥達への騒音や排気ガスによる影響が懸念。

③同年、日本野鳥の会鹿児島県支部は、当時の公園建設担当の県加世田土木事務所、地元金峰町・加世田市、県庁都市計画課や県庁環境政策課などに事情確認、再考を要望。

④平成6年、県土木部が反応、担当職員達の理解と熱意もあって、野鳥観察の島に劇的な変更。※同年秋、日本野鳥の会・県土木事務所・少年自然の家で職員で現地調査中、マナヅルの親子3羽が頭上に出現、思いがけない美しい姿に皆感動し「吉兆」と大喜びした。

⑤平成8年8月、野鳥観察舎と野鳥観察用壁、水遊び池、そして散策路が完成。※ゴーカートの変わる遊具として、子供のためのアスレチック施設が、松林を切り開き放置されていた土地を利用して作る配慮もされた。

⑥建設9年目の平成17年始め、野鳥観察舎の来館者は10万人を超え、クロツラヘラサギの観察ポイントとして、国内外の研究者や愛好家が評価。※現在では、南薩少年自然の家や、近隣の学校、周辺集落の子ども会、日本野鳥の会鹿児島県支部などの野鳥観察の場所として、定着している。

### ■ 具体的な保護への歩み

①平成14年、熊本県在野の海洋生物研究家Y氏(天草自然研究会代表)と環境省・鹿児島自然保護官事務所K氏と「霧島屋久国立公園・指宿地域パークボランティアの会」有志が、ハクセンシ



図4. 炎天下の過酷な調査風景と取材風景。

オマネキの生息地を調査・確認。

②15年、ハマグリ南限群棲地とも確認、干潟を守っているハマボウの大群落も確認。

③同年、地元の関係者などによる調査報告書「万之瀬川の貴重な自然」が発行され、関係機関に情報提供。※私自身、この冊子により、改めて現地の状況を認識することとなった。

④同年3月、先述のY氏が、県土木部河川課などへ詳細を熱心に報告し保護を要請。地元のU氏らは、市役所など地元関係者の間を回り、干潟の自然の豊かさと保護を要請。

⑤16年5月、加世田市等主催の「04吹上浜砂の祭典」で、ボランティアによる2日間の「ハクセンシオマネキと干潟の自然観察会」を開催、同時に「万之瀬川の自然を守る会」結成。

⑥同5月、私は、多自然型河川改修技術者の情報誌である財団法人リバーフロント整備センター「月刊・多自然研究第104号」に、「わが国最大の生息地か?万之瀬川河口のハクセンシオマネキ」を発表、現状を報告。※発表後、国内の河川技術者の方々から、激励や具体的な保護策などの提案を受けた。

⑦同年9月27日、「万之瀬川の自然を守る会」による生息地調査が、地元テレビにより報道(図3, 4)。

⑧地元加世田市は、「加世田市地域再生計画」に、地域の生態系保護を「要」と位置付け発表。同市の都市計画も変更。

⑨17年3月、私は、所属する当「鹿児島県自然愛護協会」から助成金を頂き、熊本県の生息地などを調査、現状と提言を機関誌「自然愛護



図5. 保護啓発下敷表.

2005年3月号」に発表.

⑩同5月の「05 吹上浜砂の祭典」では、2日間の「ハクセンシオマネキと干潟の自然観察会」を開催するとともに、祭典実行委員会による看板の設置、メイン会場での展示や舞台発表も実施、河川改修工事も、工事内容が変更され、生息地を守る形で検討と改修を開始.

⑪同9月、万之瀬川の自然を守る会は、「Takara ハーモニストファンド」の助成により、啓発用写真下敷「万之瀬川の自然」(図5)とパンフレット「自然の宝庫です 万之瀬川」を作成.

⑫18年5月、「06 吹上浜砂の祭典」では、自然観察会を実行委員会の主催事業と位置付け、開催全期間の5日間にわたる自然観察会を実施.

⑬19年3月、環境省鹿児島自然保護官事務所勤務されていたT氏が、著書「鹿児島島の貴重な生き物たち」の中で、万之瀬川の豊かな自然に

ついて紹介.

⑭同5月、「07 吹上浜砂の祭典」でも、全期間にわたる自然観察会を実施.

#### ■ 天然記念物への指定

①平成18年11月、国の文化審議会において指定答申.

②平成19年2月6日、国天然記念物として、「万之瀬川河口域のハマボウ群落及び干潟生物群集」指定告示.

#### ■ 「吹上浜県立自然公園」公園計画の変更

①平成20年1月、鹿児島県自然環境審議会自然環境部会において、万之瀬川河口区域の県立自然公園区域への編入等に関する公園計画等の変更が答申.

②同年秋施行予定. ※従来自然公園区域外であった万之瀬川河口区域について、「第2種特別地域」として新たに区域に編入. 従来「普通地域」であった中之島(野鳥観察舎等設置場所)について、「第2種特別地域」に格上げの予定.

#### ■ さいごに

国(文化財)、県(県立自然公園、河川改修等)、南さつま市(都市計画、地域再生計画、文化財等)など、行政による保護体制の整備が行われました. 心から喜び、関係行政機関に深い敬意と感謝をささげます. また、この取り組みに対する当協会諸兄の御協力に、この場をおかりして感謝申し上げます. さらに、現地において、困難な状況下にもかかわらず調査と啓発を続けられた方々にも、感謝と慰労をお伝えしたいと思います. そして、これからも、ややもすると行政任せになりがちな自然保護の取り組みを、私たち自身の手で進めていかなければならないと改めて強く思います.